



「超我の奉仕」

2005-2006 年度国際ロータリーのテーマ

RI 会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

第 2640 地区ガバナー 平尾寧章



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1410 回例会 17 年 8 月 8 日(月)

於 海南商工会議所 4F 12:30～

和歌山北 R C との合同例会

ガバナー公式訪問

和歌山西 R C 8 月 31 日(水)→8 月 31 日(水)

18:00～ ダイワロイネットホテル和歌山 3 F

“シャトーハンテン” 華都飯店

1. 開会点鐘 会長 塩崎博司
2. ロータリーソング 「我等の生業」
3. ビジター紹介

海南 R C 中村哲三様

4. ゲスト紹介 米山記念奨学生 白 涛様

5. 出席報告
会員総数 69 名 出席者数 50 名 出席免除会員 2 名
出席率 74.63% 前回修正出席率 80.60%

6. 会長スピーチ 会長 塩崎博司



皆さん今日は、暑い中良くお集まりいただきまして有難うございます。

本日のお客さんは海南 R C 中村様、米山奨学生の白さん、良くいらっしやいました。月一度のクラブ訪問です。会員との交流、親睦を深めて頂き何かを得

て頂ければと思います。先週の週末中西さんには、クラブ青少年・ライラ委員長会議に出席ご苦労さんでした。本月は、会員増強及び拡大月間で R I では会員純増 1 名以上の目標をかかげています。効果的なクラブ運営をする柱として会員を維持し、増加するということが必要です。会員増強委員会の方で先般より取り組みの方策を協議して頂いています。又、ロータリー情報委員会では今年第 1 回の I D M としてテーマを会員増強、地区大会の 2 つを上げ話し合ってください。宜しくお願い申し上げます。

本日はクラブ社会奉仕・環境保全委員長会議とクラブ職業奉仕委員長会議の報告を宮田貞三さん、山田耕造さんにして頂きます。皆様ご静聴をお願いいたします。

7. 幹事報告

○例会臨時変更

和歌山東 R C 8 月 25 日(木)→8 月 25 日(木)
18:30～ 和歌山東急イン 3 F

○休会のお知らせ

和歌山城南 R C 8 月 18 日(木)

8. 委員会報告

○ロータリー情報委員会 宮田敬之佑委員長
会員増強願います。

I D M 参加宜しくお願ひします。

○社会奉仕委員会 宮田貞三委員長



本年度の国際ロータリーのテーマは「超我の奉仕」です。超我の奉仕は社会奉仕の実践哲学です。手続要覧には和己的な欲求と、他人の為に奉仕したいという感情とのあいだに存在する矛盾を和らげようとする書かれています。今年のカバナーは、

超我の奉仕をわかりやすい言葉で説明されました。超我の奉仕とは、善意と思いやりの心からの奉仕のことです。奉仕、サービスとは、日本人にはなじみにくい言葉ですが、尽くすと言いかえた方がわかりやすいと思います。親が子に尽くす行為は、愛情と思いやりの心からで、何も見返りを期待しない一方的な尽くしっぱなしの奉仕です。これが超我の奉仕の精神です。昔の映画の話で恐縮ですが、西部劇でシェーンという映画がありました。ラストシーンで少年が去っていく主人公に“シェーン”と何度も叫びますが振り返らず、馬に乗って去って行く主人公シェーン、何も見返りを求めない尽くしっぱなしの後姿の格好良さ、それが超我の奉仕の姿です。何も古い映画の話を持ち出さなくても、格好良い後姿・超我の奉仕に徹している人を見ることができます。2640 地区のために毎日活動なさっているガバナーの平尾さん、代表幹事の楠部さん、素晴らしい後姿です。そして地区のために活動されている地区幹事のみなさん、それから地区大会の委員長の岡田さん、大会幹事の宇恵さん、善意と思いやりの大きな心で、多少の変更にも楽しみながら余裕で準備されている二人の後姿、そして地区大会の実行委員会

四つのテスト

- ① 真実かどうか ③ 好意と友情を深められるか
② みんなに公平か ④ みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：塩崎博司 幹事：木地義和 SAA：山畑弥生

の各担当委員のみなさん、海南東ロータリーの会員総ての方々が、すでに超我の奉仕を实践されている、善意と思いやりに満ちあふれた方々ばかりです。どうか、地区大会終了後は、社会奉仕委員会にお力を貸していただきたくお願い申し上げます。社会奉仕委員会は、ロータリーのエンジン、心臓の鼓動と呼ばれています。社会奉仕の各プロジェクトを実施して、なお一層ロータリーに輝きを与えて下さい。R I では①本年度も識字率の向上を重要視しています。世界で読み書きができない人口は8億8千万人と推定されています。インドでは毎年4万件もの交通事故が発生しています。事故の主な要因は、運転手が交通標識を読めないためだと言われています。書き損じの「著書」と「ポケットコイン」の募集を計画しています。環境保全全事業としてロータリー100年の森に協力します。②3000本の植樹を目標に、今年は昨年植樹して活躍しなかった木の補植事業に協力する。理事会で承認いただき、クラブ予算より1人当たり5000円寄付させていただきます。よろしく願い申し上げます。③エイズ問題にも取り組みます。先進国の中で日本だけがH I V感染者が増えています。感染者が1万人を突破しています。実際の感染者は2～3倍と推定されます。H17年10月23日“世界エイズデー 2005年 in 和歌山”として和歌山駅前で行う啓発運動に協力する予定です。日本でのエイズ感染拡大の歯止めのきっかけになればと期待しています。レッドリボンプロジェクトです。クラブ支援目標1人当たり500円となっています。レッドリボンを着けることにより「エイズ感染者に偏見や差別を持っていない」「予防に関心がある」という自己メッセージです。平尾ガバナーの特長が出ているプロジェクトに高齢者への心づかいがあります。地区内でも、クラブ内でも高齢者に対するいろいろな対策が重要です。是非取り上げて欲しいとの事です。どのクラブでも年々高齢化が進んでいきます。しかし、クラブ運営には経験豊かな人の知識が特に必要です。できるだけ役職についていただき今まで得た知識を発揮し、リフレッシュしていただく事が大切ですとの事です。当委員会では、委員の皆さんにそれぞれ、プロジェクトを担当していただく事にしました。環境保全には中村文雄さん、エイズ問題の取り組みに岡田さん。今年も行うたんぼぼの会との交流会には上南さん。識字率の向上は上芝さん。高齢者への心づかいには林さんになっていただきました。以上が社会奉仕委員長会議の報告と本年度の予定です。

○職業奉仕委員会

山田耕造委員長

職業奉仕委員長会議は7月15日(日)午後1時から4時まで、和歌山J A会館で開催されました。職業奉仕に関わってから、職業奉仕はロータリーのあらゆる奉仕活動の中でもっとも重要なものであり、ロータリーの原点である。職業奉仕なしにロータリーは考えられない



というようなことを聞きます。同時に職業奉仕ってなんよう。なんかようわからん。ということも聞きます。というようなことで職業奉仕について何かを勉強するつもりで出席をいたしました。会議はプログラムにしたがって進められたのですが、印象に残っているところから話をさせていただきます。「職業奉仕について」というタイトルで、水田パストガバナーの講演がありました。水田パストガバナーのお話は何回か聞く機会がありました。今まで、なんかよくわかりづらかったのですが、「ロータリーはシカゴのすさんだ時代に始まったものであるので、最初は職業奉仕と親睦であった。職業奉仕については手続要覧第5章に書かれているが、わかりにくいものである。職業奉仕は金銭にこだわるものでなく、適正な利潤を追求するものである。自分の仕事をしっかりやって社会に貢献することが職業奉仕なんだというようなことであったと思います。また、4つのテストについてはすべてのロータリアンが同一の立場で、同様の考えでなければいけないというのではなしに、各ロータリアンがそれぞれの立場で解釈すればよいのではないかということでした。いずれにしても、職業奉仕とはわかりにくようであります」そのなかで、はっきりと覚えておりますのが、平尾ガバナーの「他人が得をするのが社会奉仕であり、自分が得をするのが職業奉仕である」という言葉でした。多くは語られませんでした。職業奉仕の真髓を言い当てておられるのでなからうかと思えます。「平尾ガバナー年度を迎えてという」タイトルで、桃田地区職業奉仕委員長の話も印象に残っております。この方は3回目の地区職業奉仕委員長のことですが、前窪ガバナーのときの地区大会の記念講演を23分にまとめたビデオの放映がありました。(山形県の藤川パストガバナー(国際研修部のリーダーとのことでした)「会場で聞いたときはあまり覚えてないが、今このビデオを見たら、ものすごくええなという声が多かったです。このビデオは地区から各クラブに近々送ってくれることになっております。職業奉仕月間に放映してほしいとのことでしたが、私としてはできれば桃田委員長に卓話をお願いしたいと思っております」。他にも桃田委員長の話のなかに、ザルで羊の毛を洗う老婆の話が出てきます。老婆の仕事は羊の毛を洗ってきれいにするのですが、ザルを水につけると水はサーと入ってきて、毛を洗って、ザルをあげれば水は出て行く。一回の洗いではそんなに目だつてきれいになることはない。しかし、一回の洗いではそんなにきれいにならなくてもいいのではないかと。何回も繰り返し洗ううちにきれいな毛になってゆく。ロータリーでも同じことではないかということです。話を聞いても、水が出て行くようにすぐ忘れてしまう。しかし何回でも話を聞いて、何回でも忘れることをしているうちに、少しずつ進歩していくのではないかと。だからロータリーの例会には必ず出席することが大事なんだというようなことでありました。私のことを言われているような気持ちでありました。ロータリアンが行うボランティア活動、ロータリーボランティアにつ

いて、角谷（つのや）地区副委員長より説明がありました。ロータリーボランティア活動は主としてロータリアンが自分の専門職を持って、ボランティア活動をするもので、例えば、医師の方が災害のときの救助にかけつけるというようなことです。自分の専門職でボランティア活動をしてやろうとお考えの方は事前に地区に登録していただくことによって、ボランティア活動が必要になったときに地区より連絡が来るというものです。登録書式はクラブにも届いておりますが、詳しいことにつきましては地区に聞いていただいても、結構かと思えます。地区の考えている登録人数は2640地区の総会員数の1パーセント位ということです。もちろん、多いに越したことはないと思いますが、角谷さんは空登録をしないで欲しいということでした。いざ、ロータリーボランティア活動が必要になったときに、ロータリアンのやむにやまれぬ事情により、参加できないのは仕方ないが、ロータリアンに参加する意思のないのはロータリー活動にとってマイナスということのようです。以前、社会奉仕委員長会議に行ったときはなかったのですが、5月8日の地区協議会のときから8グループに分かれて、テーマを決めて意見交換を行い、各グループの代表が意見発表をするということになりました。私は7グループなのですが、ガバナー輩出クラブということで、当然のように意見発表者ということにさせられました。今回も意見発表と8月20日までに報告書の提出を言われております。自分の意見発表に気をとられまして、他グループの意見はあまり把握できておりません。ご了解をお願いします。第7グループは田辺東、海南東、和歌山中、打田、美原、貝塚コスモス、羽衣、堺、堺西の9クラブでした。7グループの討論テーマは「各クラブの職業奉仕活動の成功例、失敗例」としました。いきなり、その場でこのテーマに決めたのですが、各クラブとも活発に成功例を出してくれました。貝塚コスモスクラブは4委員会合同で空き缶集めをして、車椅子20台を社会福祉団体に寄付した。羽衣クラブは会員の全員が順番で職業卓話（1回30分）をしてそれを基礎に年2回職業フォーラムを行っている。今年も行う。クラブとして、自分の専門職による、今日聞いたロータリーボランティア活動を行っている。堺クラブは会員が聞きたいことを調べた上で、会員の専門職のロータリアンに意見を聞く例会をやっている。去年もやったが好評であった。和歌山中クラブは予算なしで活動している。社会奉仕と関連して会員の病院で医師会員が卓話をしている。自分の体が心配な会員もお喜び好評である。また、工場見学と親睦を兼ねて実施している。田辺東クラブは会員企業の社是とか、会員個人の信条を集めて本にして、全員に配り、例会で各会員が自分のことを説明する。他の会員に自分のことをわかってもらえると好評である。打田クラブはクラブの考え方として、自分の仕事を一生懸命やるのが職業奉仕であるとしてやっている。柏井ガバナー補佐からは自分のクラブの会員が自分の職業のトピックスを1年に1回は例会で発表している

とのことでした。海南東は失敗例として、インターシップを計画したが、受け入れ体制をつくる時間がなかったことを話しましたが、先ほどの委員会報告で申しあげたように協力していただける方が増えてきております。今後もよろしくお願いします。

○30周年記念委員会 吉田昌生君
例会終了後、残ってください。

9. 閉会点鐘

10. 次回例会

第1411回例会 平成17年8月22日（月）
12:30～ 海南商工会議所4F

*** ニコニコ・BOX ***

塩崎博司君	海南高校時代、お世話になりました。
山名正一君	先々週の土曜日、「若竹会」参加してきました。
林 孝次郎君	山名さんありがとうございました。
新垣 勝君	ライラ参加ありがとうございました。
吉田昌生君	ビジターの中村さんは海南観光協会会長であります。本日はありがとうございます。地区大会の表紙に藤白神社が載っています。
宮田貞三君	社会奉仕委員長会議の報告させていただきます。
山畑弥生君	先日の夜間例会では、たくさんのニコニコご協力頂きありがとうございました。

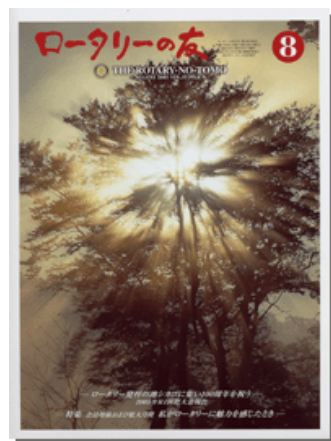


ROTARY WORLD MAGAZINE PRESS

ロータリーの友

印度のロータリアン、モンスーン罹災者を支援

記録上、最大のモンスーンによる洪水と地滑りの被害者を助けるために、印度、マハラシュトラで、ロータリアンが災害復旧支援活動に参加しました。1週間以上も間歇的に降る雨で片付けの作業が出来ず1,000名に近い死者が出た様子です。印度の財政首都ムンバイ（Mumbai）（旧称ボンベイ）の住民の殆どを含む、2,000万に近い住民がこの雨で被害を受け、第1日目の雨量は940ミリに達しました。”ここに50年間住んでをりますが、この様な事は初めてです”とボンベイ・バンドラクラブのシャイアム・ルパ



ニ会長が語りました。ムンバイの70のロータリークラブの会員達と同じ様に、ルパニ会長は、自分の家族の面倒と、他の罹災者を助ける二重の仕事に追われております。”家を含め、全てを失った多くの人達を、私達は助けてをります。然し、これは容易な事ではありません。未だに通信が困難で、携帯電話が、やっと3日前に復旧されました。今迄は地上線による通信は困難でした”と会長がコメントしました。RIの3130と3140地区内の多くの人達が緊急に食糧と支援物資を必要としており、この地域の人達は、家を10,000戸、15,000の家畜を失い、30万エーカーを越す農地が被害を受けました。マハラシュトラ州政府の推定によると、インフラと物的被害額は米貨34億弗に匹敵します。他の都市で被害を蒙ったのはピューン、ライガド、ラツナギリ、ティンでピューン・シヴァジナガルクラブのデーパク・シカルピュール会長の報告によると、同クラブの会員が雨で線路が流されて、立ち往生した列車の乗客に食事を配りました。”500名を越す乗客を助け、時宜に適した我々の支援に感謝されました”と会長は報告しております。シカルピュール会長は、危機は去った訳ではなく、クラブは罹災したロータリアンを会員の家に無料で泊めたり、衣類や医薬品の配布や、両親を失った子供達の教育援助を行っております。D3130内のロータリアン達は寄贈されたか、地区保有の救援資金を使い、地元で購入した救援物資を配布しました。救援物資はトラック3台の食料品、寄贈された毛布1,000枚と医療用品でした。支援に関する詳細は次のRIウェブサイトをご覧下さい。

RIがインドネシアの緊急ポリオ防疫用に25万弗を認可

国際ロータリーはWHOのインドネシアでのポリオ防疫活動用資金として、米貨25万弗供与を許可しました。約2,440万の5才以下の子供をポリオから守る為に国内統一防疫キャンペーンが8月30日と9月27日に行われます。これは、4月に西ジャワで防疫されていない子供がポリオに罹った事に対応する為のものです。印度のムンバイに在るWHOの研究所での遺伝学的な伝染経路調査によると、2003年に西アフリカで発生し、広く伝染したポリオウイルスと同じものでした。専門家によると、ウイルスは恐らく西アフリカのナイジェリアからスーダンを經由した旅行者によりインドネシアへ運ばれたものと考えられます。ポリオは其処で数州に広がり2005年7月27日現在で155件が報告されております。過去10年間ポリオの無かったインドネシアでのウイルス拡散防止の緊急性を考慮し、カール・ヴィルヘルム・ステンハマーRI会長は”我々は出来る限りの手を尽くし、効果的で安全なワクチンの使用で、悲劇と一生涯の後遺症を止め、容易にポリオに罹るのを阻止出来るのですから、防疫されない子供を1人も無くするようにしてポリオの拡散を止め、私達は、出来る限りの事をし

なければなりません”と述べました。インドネシアのロータリアンが総動員され、同国でのポリオ蔓延防止活動に参画し、計画されているNIDに参加する予定です。ロータリアンの活動範囲は、子供達が防疫される事の重要性を地元で教え、経口ポリオワクチンの投与、及び地元の指導者が全ての子供に連絡するのを支援し、保健関係者が投薬を受けた子供の正確な記録を作る事を助ける事です。

シカゴ国際大会レポート



159か国からの約4万人(非公式)の参加者を得て、ロータリー100周年を祝うシカゴ国際大会が、6月19日に開会しました。開会本会議は、会場の都合で3回行われ、日本人の多くは2回目に参加しました。ブリスベン国際大会のとき、旅立った5つの100周年記念の鐘が、それぞれに世界中の異なった場所回って、シカゴ国際大会の会場に再び集まりました。開会点鐘では、この5つの鐘を同時に鳴らし、100周年の記念大会にふさわしいものになりました。ロータリー100周年を祝う国際大会にふさわしく、20日の本会議では、ロータリーの最初の100年を振り返りました。スクリーンには、国際ロータリーのアーカイブに保存されている、創始者ポール・ハリスやロータリアンたちの奉仕活動の映像や写真が、次々と映し出されていきました。また、『奉仕の一世紀』の著者デビッド・C. フォワード氏のインタビューやポール・ハリスの秘書として国際ロータリーで働いた女性とその思い出を語るなど、興味深い話が続きました。この日のメインは、テッド・ターナー氏の講演。ターナー氏は、ロータリーから、特に職業倫理について学び、「超我的奉仕」と「四つのテスト」の考え方に賛同したと、述べました。ロータリー100年の歩みを振り返った前日に続き、21日は、「今日のロータリー」というテーマで、現在、国際ロータリーで、そして、各クラブで実施しているさまざまなプロジェクトを紹介し、ロータリーやロータリー財団の意義を考えました。特に、親が奴隷だったという貧しい祖父母に育てられた自分がロータリー財団の奨学金を得て学び、現在、ホワイトハウス・大統領特別顧問および大統領人事局長補佐を務めるに至ったという、「優美と報恩の冒険」というテーマのエリック・モトリー博士の講演は、ロータリー財団親善奨学生の意義深さを再認識するものとなりました。また、ロータリーが長年取り組んできたポリオ撲滅に関する経緯と現在の状況の報告が、世界保健機関事務局長J.W.リー博士からあり、ポリオのない世界をとというロータリアンの目標達成が目前のできていることを示唆し、喜びを分かち合いました。